



津区域における病床の機能分化にかかる 支援制度の活用希望について

「令和6年度病床機能分化連携推進事業補助金」の対象医療機関

病床機能分化連携推進事業補助金について

- 地域医療介護総合確保基金を活用した病床機能分化推進基盤事業に基づき計画する病床規模の適正化（病床削減）については、地域医療構想との整合性が確保されているかどうか、地域医療構想調整会議において事前に確認することとしています。
- 令和6年度津区域における、地域医療介護総合確保基金を活用した病床規模の適正化にかかる事業については、以下の医療機関から活用希望があったため、地域医療構想との整合性について協議します。

事業の内容

- **医療機関名** 三重中央医療センター

- **事業内容** **将来構想**

令和6年4月から西7病棟で運営している結核病床を30床から15床に削減し、減じる15床のうち10床を結核患者収容モデル病床とする。（結核対応病床としては25床）

なお、モデル病床とするための一般病床は西2病棟の病床を削減し、西7病棟へ移して充てたい。削減した部分の西2病棟の用途は病院管理部門・歯科・化学療法へ用途変更を行う。

（西2階病棟の削減病床数は31床）

また、令和5年度末の新救急外来棟整備に併せて、西3病棟急性期病床4床を高度急性期病床へ変更し、西3病棟は高度急性期病床合計10床にて運用を行う。

活用理由

- ①現状の結核患者数に準じて適正な病床数の見直しを図るため
- ②新たなパンデミックに対応できる医療機関体制を構築するため
- ③病床を削減することで地域構想に寄与するため
- ④津市の2次救急体制改善のため当院の集中治療体制を強化するため
- ⑤西2階病床の病床を削減し、新たに活用を行うため

そのため、三重中央医療センター単体の病床を486床から440床へとダウンサイジングし、その際に不要となる病室の用途変更を行う。

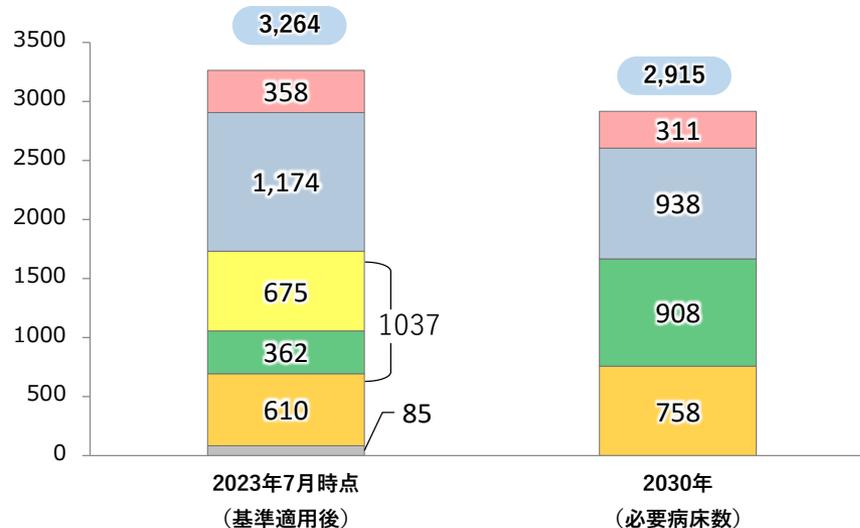
地域医療構想との整合性について

(A) 削減前			(B) 削減後			削減数 (A-B)
一般	高度急性期	90	一般	高度急性期	94	4
	急性期	315		急性期	325	10
	急性期 (休棟)	45		急性期 (休棟)		▲45
	地域急性期			地域急性期		—
	回復期			回復期		—
	慢性期			慢性期		—
	小計	450		小計	419	▲31
結核	30	結核	15	▲15		
感染症	6	感染症	6	—		
合計	486	合計	440	▲46		

● 病床削減時期 令和6年度中

必要病床数と現状の病床数の比較グラフ

津



県の考え方

津区域においては、将来の必要病床数と比較して、急性期病床、病床総数ともに過剰であり、全体的なスケールダウンが必要な状況となっていることをふまえると、県としては今回の病床削減は急性期の削減につながる転換となりますので、津区域地域医療構想との整合性が確保される計画であると考えられます。